



プロジェクト名称

石垣島を元気にするプロジェクト

プロジェクト活動概要

本プロジェクトは沖縄県石垣島のサンゴ礁保全を目的に活動している。

対象地である石垣島は日本有数のサンゴの生息地であるが、現在、サンゴの死滅が深刻である。死滅の原因は地球温暖化やオニヒトデによる食害など様々である。それらの中でも本プロジェクトでは農地からの耕土流出問題に着目して活動を行う。

プロジェクトの立ち上げから活動内容に至るまで全て学生主体で計画・実行し、メンバーはシステム理工学部の学生 8 人（1 年 4 人、2 年 4 人）で構成されている。活動内容は、埼玉では週 1 回のミーティングや環境コンテストへの参加、また年に 2～3 回石垣島へ渡航し、現地調査やイベントを行っている。現地調査では、WWF しらほサンゴ村、石垣市観光協会、NPO 法人石西礁湖サンゴ礁基金、学校関係者、農業関係者、漁業関係者など、様々な人の支援のもと活動を行っている。

現在行っている活動は、地産地消マップの作成、意識啓発イベントの開催、小学校との活動、流出対策「緑肥」の調査・普及、の大きく 4 つである。これらの活動を継続して行い、将来的には私たち外部の人間が継続するのではなく、島民が継続できるようにシステムを確立することで、島民による自発的なサンゴ礁保全を目指す。

活動状況報告 & 活動写真など 活動期間：2016 年 1 月 1 日 ～ 3 月 31 日

【1 月】

渡航に向けての準備

【2 月】

小学校のサンゴ礁保全に関する環境教育とサンゴウィークでのイベント開催
また地産地消マップの回収を行った。

小学校環境教育について

石垣島にある白保小学校と真喜良小学校の 2 校で行い総勢 73 人に環境教育を行った。

* 目的 *

サンゴ礁保全への興味関心の向上と赤土流出防止対策(緑肥)の重要性伝える

* 授業内容 *

サンゴ礁に関する基礎的な知識のクイズを行うことで興味関心を引きつけた。

赤土流出問題について考える

実験

* 実験内容 *

タッパーに赤土を詰め、小さな畑をつくり、身近なもの(割りばしやストロー)で赤土流出を防止できな



いか考える。ジョウロで水を流し、雨が降った時を再現し、どの程度赤土流出防止ができたか計測する。

* 結果 *

赤土流出問題について知ってもらうことができ、またサンゴ礁保全への興味関心が高まったと思われる。

サンゴウィーク

イベントに総勢 35 人が参加

* 目的 *

ひまわり緑肥の普及とサンゴ保全の意識向上

* 内容 *

紙芝居（ひまわり緑肥の重要性を伝えるもの）

赤土流出の模擬実験

実際農地に行きひまわりの種を植えた。

* 結果 *

紙芝居や赤土流出実験を通してサンゴの現状を理解し、それを理解した上でひまわりの種を植えることでひまわり緑肥への深い理解が得られた。

地産地消マップ

* 目的 *

地産地消マップを配布することによって農家の経済的負担を軽減するため

* 内容 *

夏に配布した 1300 部の地産地消マップを収

食堂・直売所人たちにヒヤリング（利用状況や本プロジェクトの知名度などについて）

* 結果 *

地産地消マップの利用率は少なかった。また、農家に金銭的支援を行えてるかの確認ができないことなど様々な問題が挙げられた。

今後の活動計画、目標、意気込みなど

地産地消マップの作成や小学生への環境教育、イベントの開催、他団体が主催するイベントの手伝いなど、今年度は充実した活動を送ることができた。活動の成果として、yahoo ニュースや地元紙に取り上げられたり、石川テレビに取材されたり、メディアに取り上げてもらった。地元農家の方から、私の畑でも赤土流出防止のためにひまわりを植えてくれないかと声をかけていただけたのは、こういった成果が島民に大きな影響を与えたのではないかと。私たちの活動目的である「島民による自発的なサンゴ礁保全」に一步近づけたと考えられる。また、白保地区の議員さんや環境保全団体から協力してあげようとお声をかけていただけているので、今後は意識啓発活動の枠にとどまらず、自分たちもひまわり緑肥を実践していけるような活動をしていきたい。具体的な案として「白保地区全体にひまわり緑肥を普及し景観を向上させるとともに赤土流出を抑制する」というものがある。今後はこの案を検討し活動を進めていきたい。さらに、今までの活動には目標達成までの期限が設けられていなかったことも反省し、3 年後とう期限を設け、今までより、いっそう多くの人を巻き込んで活動していきたいと考えている。